



埋文だより

第78号

平成31年2月28日発行



階段状の施設



上流付近の導水路



導水路の石積み・落水口



石垣上部の導水路

日本最大級の火薬製造所跡 ～滝ノ上火薬製造所跡～

文政年間(1818～1830)に設立した滝ノ上火薬製造所跡は、鹿児島市稲荷町に所在します。島津斉彬の頃には、7基の水車が稼働し、和式から洋式へと製造方法を改めました。明治になり、陸軍に所管が移りますが、火薬の製造とともに弾薬の製造も行っており、その規模は、日本最大級を誇っていました。明治10(1877)年、政府が滝ノ上火薬製造所の弾薬と製造機械を持ち出したため、私学校生徒が怒り、草牟田や磯の火薬庫を襲う事件(弾薬庫銃撃事件)が勃発し、滝ノ上火薬製造所も襲われます。西南戦争のきっかけとなった場所の一つでもあります。

今回の発掘調査では、25年前の8.6水害等で破壊されたと考えられていた石垣や上流部分の導水路が発見されました。古写真や絵図の火薬製造所跡が確認され、今後の調査・研究・活用が期待されます。

目次

- ・日本最大級の火薬製造所跡…………… 1
- ・発見！発掘速報…………… 2～4
- ・かごしま遺跡フォーラム2018 他…………… 5
- ・遺跡公開 現地説明会開催…………… 6

発見！発掘速報

今年度、発掘調査が行われている、
県立埋蔵文化財センターと（公財）
埋蔵文化財調査センターの発掘調査
成果の一部を紹介します。



…県立埋蔵文化財センターの発掘調査
…（公財）鹿児島県文化振興財団
埋蔵文化財調査センターの発掘調査

古くからの文化交流

～原村遺跡(曾於市)～



(6 ページに関連記事)

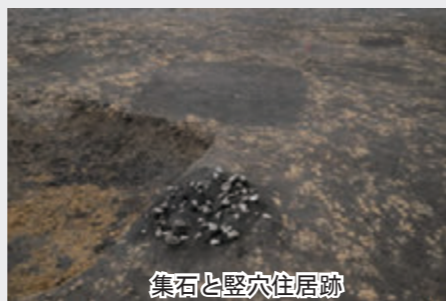
都城志布志道路建設に伴う発掘調査が進む原村遺跡は、曾於市末吉町南之郷に所在し、近世から縄文時代早期までの遺構・遺物が発見されています。平成 29 年度から調査を行っており、今年で2年目になります。

今年度の調査では、主に縄文時代後期と縄文時代早期の2時期の遺物が多く発見されています。

縄文時代後期では、遺跡北側の崖に近いところで竪穴建物跡が1軒発見されました。建物跡からはおよそ3,500年前のものと思われる中岳Ⅱ式土器や石皿片、軽石などの遺物が出土しています。

縄文時代早期は、本遺跡で遺構・遺物ともに最も多い時代で、竪穴住居跡1軒、調理施設と考えられている集石遺構が35基、落とし穴が5基発見されています。

集石遺構は、北側にむかって下る緩やかな斜面で多く発見されています。落とし穴は7,300年前に鬼界カルデラが噴火した際に飛んできたアカホヤ火山灰が入り込んだものと、P13 と呼ばれる約10,000年前に桜島が噴火した際に飛んできた軽石が入り込んでいるものの2種類にわかれます。また、石鏃などを作る際に飛び散った黒曜石やチャートなどの石材の破片がまとまって出土するエリアが2か所発見されています。黒曜石には大分県の姫島で産出される黒曜石が複数見つかり、当時から離れた地域との交流があったことがうかがえます。



集石と竪穴住居跡



中岳Ⅱ式土器の検出



石器製作跡



環状石斧の検出

古墳時代の集落跡

～名主原遺跡(鹿屋市)～



鹿屋吾平佐多線（吾平道路工区）改築事業に伴い、鹿屋市吾平町に所在する名主原遺跡・久保田牧遺跡・猫塚遺跡の確認調査を行いました。その中でも名主原遺跡は、過去の発掘調査で古墳時代の遺構や遺物が多く見つかっています。今年の確認調査でも、古墳時代の溝や住居跡、

地下式横穴墓の可能性のある遺構が発見され、溝と住居跡の中からは多くの成川式土器が出土しました。まだ見つからない古墳時代の人々の痕跡がたくさんあると思われ、今後の本調査での発見が期待されます。



古墳時代の溝



地下式横穴墓の入口か

高所での調理施設!?

～宇都上遺跡(志布志市)～



宇都上遺跡は志布志市安楽に所在する縄文時代から近世までの遺跡です。縄文時代の調査では多数の土器や石器が出土し、集石遺構と呼ばれる拳大の石を集めた遺構が32基も発見されました。1つの集石は100個程度の礫を集めてつくられたものが多く、標高の高い場所に並んで発見されました。

集石遺構は石を集めて焼き、その上に食材を置いて調理をした施設と考えられています。宇都上遺跡の集石遺構はあまり石が焼けておらず、炭も少ししか残っていなかったことから、繰り返し使用していなかったと考えられます。また集石の近くでイノシシなどの獲物を捕らえる落とし穴も見つかりました。時期は異なるかもしれませんが、獲物を捕まえて、すぐに調理して食べたのかもしれない。



点在する集石



近くで検出された落とし穴

歩き続けた古道

～鶯原遺跡(鹿屋市)～



川上遺跡・鶯原遺跡・廣牧遺跡は、鹿屋市吾平町麓にある遺跡です。大隅縦貫道（吾平道路）建設に伴い、今年度から発掘調査がおこなわれています。鶯原遺跡では、古墳時代から古代にかけての古い道の跡である「古道跡」が6本見つかっています。これらの古道跡は全て重なった状態で見つかり、人々が長い間、同じ場所を歩いていたことがわかります。これらの古道跡は、開聞岳の爆発により生じた紫コラ（西暦874年）や青コラ（古墳時代）と呼ばれる

火山灰と一緒に見つかるため、その時代がわかります。同じような古道跡は廣牧遺跡からも見つかりました。今から道路を作る場所に1,200年ほど前も道があったなんて面白いですね。



古道跡



古道の断面

縄文人が住み続けた土地

～春日堀遺跡(志布志市)～



春日堀遺跡は志布志市有明町蓬原に所在し、菱田川の河川沿いの標高29mの河岸段丘に立地しています。平成26年度から調査が行われ、これまでに縄文時代早期（約10,000年前）、古墳（約1,600年前）、中世（約600年前）の遺構・遺物が発見されました。

今年度は主に縄文時代早期の調査を行い、注目される成果は、「押し型文土器」が作られた頃（約8,500年前）の「円形竪穴住居跡」が県内で初めて確認されたことです。3軒連なった真ん中の住居の床面付近からこの土器が出土しました。このほかにも、当時の調理施設と考えられている連穴土坑、集石遺構も見つかり、縄文人が繰り返しこの地を選んで住み続けたことが伺えます。



円形竪穴住居跡

御楼門の石畳の一枚の長さは約 56cm(ゴロー)

かごしまじょうあと かごしま
～鹿児島城跡(鹿児島市)～



いよいよ御楼門再建工事が本格的に始まります。現在は、工事に向けて周辺の整備や土壁造り、瓦の制作など準備作業が行なわれています。御楼門跡には、正方形の切石を45°に傾けて配列した石畳が現在も残っています。この石畳の一部が沈んで、水溜ができることが以前から確認されていました。この石畳を修復するため、石畳の下の様子を調べる目的で発掘調査を実施しました。

石畳を外すと白い土が一面に広がっていました。この白い土は良く締め固められ、通常発掘調査では、移植ゴテで土を掘っていくのですが固すぎて手に負えません。ノミとハンマーで叩き切るように調査



45°に傾けた石畳



石畳の断面

をしました。石畳が沈んでいた場所は、この固い土の締め固めが不十分で柔らかい状態や、白い土ではなく黒い土が入っていたりしていました。白く固い土は軽石等を配合した土を人力で叩き締め、コンクリートに

近い固さと色合いです。今後はこの土を分析し、どのような材料を配合した土だったかを詳しく調べていきます。

壁際で見つかった遺構の調査

たはらさこのうえ かのや
～田原迫ノ上遺跡(鹿屋市)～



田原迫ノ上遺跡は、鹿屋市串良町細山田に所在し、笠野原台地の縁辺部に位置する遺跡です。本遺跡の標高は約120mで、北側には、串良川が西から東に向かって流れています。

今年度の調査では、縄文時代早期(約9,500～7,800年前)の竪穴住居跡が発見されました。その調査の手順は次の通りです。



検出状況

- ① 遺構のプラン(形)がはっきり見えるまで、掘り下げます。
- ② 土の埋まり方などを調べるための土層ベルトを設置して、図面を書き、記録写真を撮ります。
- ③ 土の色の違いや硬さなどに気をつけながら、遺構全体の形を出していきます。



調査状況①



調査状況②



作業風景

今回は竪穴住居跡全体を出して調査することができましたが、広げられる範囲には限りがあるため、一部の形を出して調査を終えざるを得ない場合もあります。

今後は、今回発見された竪穴住居跡の調査結果をもとに、これまでに発見された同時期の遺構との関係性を比較・検討することで、当時の人々の生活の様子がより明らかになっていくと考えられます。



完掘状況

普及・啓発活動

かごしま遺跡フォーラム2018

今年度の『かごしま遺跡フォーラム2018』は、10月13日(日)、実施希望の声を受けて、初めて大隅半島で開催しました。以前から注目の集まる、東九州自動車道建設に伴う発掘調査成果を公開しました。「発掘調査からわかってきた大隅の歴史～道路の下の物語～」と題した所長講演の他、志布志市教育委員会を含めた5遺跡の調査成果の発表もありました。約270名にもものぼる多くの方の来場もあり、今後自動車道になる遺跡の歴史を感じていただきました。県内の歴史を知る年1回の数少ない機会です。来年度も多くの方が御来場していただけるよう企画して参ります。



掘調査からわかってきた大隅の歴史～道路の下の物語～」と題した所長講演の他、志布志市教育委員会を含めた5遺跡の調査成果の発表もありました。約270名にもものぼる多くの方の来場もあり、今後自動車道になる遺跡の歴史を感じていただきました。県内の歴史を知る年1回の数少ない機会です。来年度も多くの方が御来場していただけるよう企画して参ります。

本物に触れる授業(埋文授業支援)

平成30年度は、「西南戦争を掘り、学ぶ」と題して、日本の近代化から西南戦争にかけての調査成果をもとにした授業支援を行っています。昨年、かごしま近代化遺産として有名になった久慈白糖工場跡関連施設のある奄美大島にも、希望により専門職員を派遣しました。県内の小学校4校や中学校2校、高等学校1校、市町村の社会科部会研修会や図書館講演会2団体など、全9カ所で開催し、計527名の受講がありました。



今後も、年度内に2カ所の授業支援を予定しています。今年度は、世界遺産だけでなく、多くの事柄で鹿児島県が注目されました。鹿児島県の歴史に触れ、特に「本物」の土器や石器に触れて、先人の営みを身近なものとして感じるとともに、郷土の歴史について深く学ぶ機会になりました。

埋蔵文化財 専門職員上級講座

年間を通して、専門職員養成講座を開講しておりますが、今回の上級講座のテーマは『石造文化財の劣化と保存一診断・保存処理・管理一』です。

1月17日(木)・18日(金)の2日間にわたって実施しました。講座、意見交換を県歴史資料センター黎明館で、実習を鹿児島市の福昌寺跡で石塔のクリーニングを行いました。

参加者15名からも、「講座の知識を実践形式に移せて実がある内容だった」「実物をクリーニング処理できて理解しやすかった」「質問がすぐでき、他の市町村の実情も知ることができ参考になった」などの感想も寄せられました。今回の研修講座を振り返って、市町村でも生かしてもらいたいです。

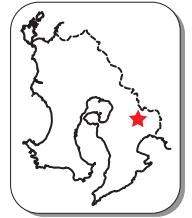


遺跡公開! 現地説明会開催

原村遺跡



都城志布志道路建設に伴う発掘調査が進められている原村遺跡(曾於市)で、平成30年12月1日(土)に現地説明会が開催されました。当日は、天候にも恵まれ、約220名の見学者が訪れました。



はじめに遺跡の地層の堆積状況を見て、



地層の堆積状況の説明



調査風景見学エリア



遺構実測風景



出土遺物の展示

各火山灰層の由来や各時代の地層に該当する遺物の説明を行いました。

次に、日頃行っている発掘調査の作業風景と、道具の使い方や遺構の検出方法等を具体的に見学するエリアを設けました。また、遺跡の主体となる縄文時代早期の集石遺構や土坑などの遺構を見学し、実際に行う遺構実測風景も見てもらいました。最後に、原村遺跡の本調査で出土した縄文土器や石器等の遺物を時代ごとに展示し、多くの参加者から質問もありました。

今回、原村遺跡の発掘調査の成果を地域住民の方々に公開する場を設けることができ、昔の人々の営みを感じていただけたようです。

六反ヶ丸遺跡



南九州西回り自動車道建設に伴う発掘調査が進む六反ヶ丸遺跡(出水市)で、平成30年11月10日(土)に現地説明会が開催されました。晴天に恵まれ、多くの見学者で賑わいました。

当日は、これまでの調査成果が身近に体感できるように、6つの見学エリアを設定し、それぞれの場所で調査担当者がくわしく説明を行いました。また、「土器洗い体験コーナー」では、土器に直接触れる機会を設けました。見学するなかで、古代官道の可能性のある礫敷遺構を歩きながら、当時の人々の気分を味わってもらいました。古墳時代の大型堅穴住居跡の大きさを実感したり、小型仿製鏡の出土状況を間近

に見学するなど、六反ヶ丸遺跡が古墳時代・古代・近世にわたって利用されていた様子を見学者の方々に感じて頂いた一日となりました。



礫敷遺構の説明



土器の水洗いを体験中



調査風景の説明



展示室も盛況

当センターの見学は、土曜・日曜・祝日・年末年始を除き、毎日午前9時～午後5時まで、入館料は無料です。

なお、当センターのホームページは、鹿児島県 (<http://www.pref.kagoshima.jp/>)

または、上野原縄文の森 (<http://www.jomon-no-mori.jp/>)、QRコードからお入りください。

検索キーワード

上野原縄文の森

検索



埋文だより 第78号

発行日 平成31年2月28日
編集・発行 鹿児島県立埋蔵文化財センター
〒899-4318 鹿児島県霧島市
国分上野原縄文の森2番1号
TEL 0995-48-5811・FAX 0995-48-5820
URL: <http://www.jomon-no-mori.jp>
E-mail: maibun@jomon-no-mori.jp